

発刊にあたって

21世紀教育センター長 矢島 忠夫

平成3年の大学設置基準の大綱化にともない、弘前大学は平成7年から教養教育を全学担当制で実施することを選択した。その積極的な効果は、教養教育が全学の問題として取り組まれるに至ったことである。その反面、教養教育の実施とその改善を主たる職務とする教員が、弘前大学から忽然として消え去り、それまでに培われてきた経験や研究成果の多くが継承されないままに失われていくことが危惧された。

大学が、教養教育にかぎらず、自らの教育活動それ自身を研究対象とし、その検証に基づいて改善の方向を定めていくことの必要性については言うまでもない。

本学は、平成13年「21世紀教育センター」を設置するとともに、平成16年には、「高等教育研究開発室」を新設し、専任教員1名を配置するという形で、その一歩を踏み出すことになった。

高等教育研究開発室の任務は、1. 弘前大学における教養教育(21世紀教育)のカリキュラム、教育方法、運営組織などを、その教育効果の視点から検証し、改善策を提言する。そのために、建設的な議論の基礎となるデータを蓄積し、その分析に基づいて現行システムを点検する研究活動を継続的に行う。2. 他大学の教養教育ないし全学教育の実態を調査し、学内の啓発活動や研修活動など、「21世紀教育」改善のための諸活動を企画し実施するにあたって主導的な役割を果たす。ことである。

今回、『21世紀教育フォーラム』の創刊という形で、その研究活動の成果が広く共有されるに至ったことは大変よろこばしいことである。『フォーラム』の名が示すように、学術論文にかぎらず、21世紀教育改善のためにさまざまな立場の人が多様な意見や提案を持ち寄って語り合える「広場」となることが願いである。

この冬は、三八豪雪以来の大雪であった。この活動のなかから、やがては教養教育学の、さらには大学教育学の芽が育っていくことを、消え残る雪のなかで夢見ている。